

接続詞	
<p>接続詞には、文と文、語と語、といった対等なものをつなげる等位接続詞と、従属節（文をまとめて副節や名詞のような文の「要素」としての働きをもたせたもの）を主節につなげる、従位接続詞がある</p>	
<p>等位接続詞には次のようなものがある</p>	
付加・列挙	and
二者選択	or
対立	but
否定的付加	nor

従位接続詞には次のようなものがある

比較	as, than, like
条件	if, unless
対立	(a)lthough, while, whereas
度合・程度	as
場所	where, wherever
原因と理由	because, as, since
結果	that
間接疑問	whether, if
間接陳述	that
時	同時
	前
	後
	場合
	when(ever), while, as
	before, until, till
	after, since
	once, when, whereupon

<p>複数の語が組み合わせられて使われる複合接続詞の捉え方</p>	
both A and B	both という代名詞が A and B という同格の2つの名詞で言い換えられている
either A or B	either という代名詞が A or B という同格の2つの名詞で言い換えられている
not A but B	A を否定し、but という「対立」を表す接続詞で、B であることを表している
not only A but also B	A だけであることを否定し、but という「対立」を表す接続詞で、B でもあることを表している

as soon as	I got my coat off as soon as I entered the room. の最初の as は soon という、文に情報を追加する時を表す副詞に対する早さの程度（それくらい早く）を表し、次の as は比較を受ける接続詞で、合わせて「私が部屋に入ったのと同じくらい早く→部屋に入るとすぐ」という意味になる
even if	even は、意外・驚きをもってレベルの高さ・低さをあらわす程度の副詞で、if を強調し、「たとえ〜であっても」という意味を表す
as if	as は「その通り」という意味の程度を表す副詞で、if と合わせて、「まるで〜のように」という意味を表す
so ~ that	The quiz is so difficult that they can't answer it. の so は difficult という形容詞の程度（それくらい難しい）を表す副詞で、that は結果を受ける接続詞で、合わせて「とても〜なので〜」という意味になる

<p>接続詞と同様に文と文の関係を示す連結副詞</p>	
so	I felt tired, so I went to bed. の so は、対立しない順行の関係を表す
however	John is old. He, however, go swimming every day. の however は対立する逆行の関係を表すが、however は but のように2つの文を直接繋ぐことはなく、次の文中（文頭とは限らない）に置く

<p>時制の一致と話法</p>	
<p>「時制の一致」は、引用される文の時点が基準になる時制の、日本語との対比から来た「文法」で、英語は引用される文話している時点から見た時制となる</p>	
<p>話法</p>	
He said, "This is my favorite CD now." のように引用符を使って、発言をそのまま伝える表現を直接話法といい、それに対し、He said (that) that was his favorite CD then. のように、話す人が発言を言い換えて伝える表現を間接話法という	
<p>間接話法は発言を話す人の立場から言い換えるもので、通常次のような言葉は言い変えられ、時制は話す人の時点から見た時制になる</p>	
直接話法	間接話法
this →	that
these →	those
here →	there
now →	then
~ ago →	~ before
last ~ →	the last ~
today →	that day
tomorrow →	the next day または the following day
yesterday →	the day before または the previous day
last night →	the night before または the previous night

分詞構文	
<p>Feeling happy, I smiled at her. (うれしかったので彼女に微笑んだ) のような文を「分詞構文」といい、理由・状況・条件などの「状況補語」を表す</p>	
分詞構文は、副詞節の主題と接続詞を分詞だけで表現する	
Feeling happy という分詞の部分の表しているものは、あくまでも「うれしく感じている」ということで、二つの部分の関係は副節の常態に変わる、論理的には曖昧な文法的表現	
<p>受動態の分詞構文</p>	
〈being +過去分詞〉Being eaten with rice, it is really good.	
〈being は省略され〉Eaten with rice, it is really good.	

分詞構文	
<p>Feeling happy, I smiled at her. (うれしかったので彼女に微笑んだ) のような文を「分詞構文」といい、理由・状況・条件などの「状況補語」を表す</p>	
分詞構文は、副詞節の主題と接続詞を分詞だけで表現する	
Feeling happy という分詞の部分の表しているものは、あくまでも「うれしく感じている」ということで、二つの部分の関係を副節の常態に変わる、論理的には曖昧な文学的表現	
<p>受動態の分詞構文</p>	
〈being +過去分詞〉Being eaten with rice, it is really good.	
〈being は省略され〉Eaten with rice, it is really good.	

分詞構文	
<p>Feeling happy, I smiled at her. (うれしかったので彼女に微笑んだ) のような文を「分詞構文」といい、理由・状況・条件などの「状況補語」を表す</p>	
分詞構文は、副詞節の主題と接続詞を分詞だけで表現する	
Feeling happy という分詞の部分の表しているものは、あくまでも「うれしく感じている」ということで、二つの部分の関係を副節の常態に変わる、論理的には曖昧な文法的表現	
<p>受動態の分詞構文</p>	
〈being +過去分詞〉Being eaten with rice, it is really good.	
〈being は省略され〉Eaten with rice, it is really good.	

前置詞	
<p>前置詞は、前置詞＋名詞として前置詞句を作り、前置詞の目的語に対する位置や方向を表す</p>	
前置詞に使われる語の多くは、動詞に動作の方向を付け加える副詞としても使われる	
<p>前置詞の基本イメージ</p>	
at	「(大きさを持たない) 点」
on	「面や線に接している」
in	「囲まれた空間や範囲の中にある」
by	「何々のそば」（行為者はそばに居る）
for	「ある地点までの途中」で、方向を表す。
to	「到達」
across	「(何かを) 横切る」
of	「分離・関係」
with	「対象から離れたものが向かってきて一緒になる」
over	「上を通過」
through	「通り抜ける」
about	「〜のまわり（外側）」
above	「位置が上方」
after	「後に続く」
against	「対象に向かう力と力をかけたとき対象が押し返してくる力の感覚」
among	「個々の何かを意識しないものの間」
between	「個々の何かを意識するものの間」
along	「長手方向の動き」
before	「(おもに時間や順番という場合の) 前」
beyond	「何かの反対側の向こう」
from	「起点から離れる」
during	「期間中」
into	「〜の中へ」
around	「〜のまわり（周囲）」
under	「何かの下」
as	「〜のとおり」
upon	「上方向に接触」
without	「つながらなし」
within	「範囲内」

<p>that という関係代名詞</p>	
<p>that は「なめらかに後につなげる」機能を持ち、「名詞」としての機能は弱い</p>	
My house, which has been for sale for six months, has just been sold. のような、非制限用法の場合は、my house と which の間にカンマがあり文が途切れているため、which の代わりに that を使うことはできない	
同様の感覚で、This is the knife with which he was killed. のような、前置詞が関係代名詞の前に置くのが正しいとされたが、現在では、This is the knife which he was killed with. と、関係節の中に置かれるのが一般的	
<p>that という関係代名詞</p>	
<p>that は「なめらかに後につなげる」機能を持ち、「名詞」としての機能は弱い</p>	
My house, which has been for sale for six months, has just been sold. のような、非制限用法の場合は、my house と which の間にカンマがあり文が途切れているため、which の代わりに that を使うことはできない	
同様の感覚で、This is the knife with which he was killed. のような、前置詞が関係代名詞の前に来る文にも、which の代わりに that を使うことはできない	

<p>制限用法と非制限用法</p>	
<p>This is the book which I bought yesterday. のような、関係代名詞が先行詞を数多くのものの中から特定するような使い方を制限用法といい、My house, which has been for sale for six months, has just been sold. のような説明を加えるだけの使い方を非制限用法という</p>	

形容詞	
<p>形容詞は「もの」の状態や性質を表現する品詞</p>	
<p>2通りの使い方</p>	
This is a red flower. の red のように、名詞の概念そのものを変更する modifier（モディファイア：modify 部分的に変更 er するもの）としての使い方は、flower という名詞を red flower という別のものに変化させている	
This flower is red. の red の場合は、名詞そのものを変化させることはなく、単に説明しているだけ	

副詞	
<p>副詞は文や語に情報を付け加えたり、文の外側にある、文が成り立つ前提や文に対する評価などを示したりする品詞</p>	
<p>基本文に情報を追加するもの</p>	
<p>様態など状況補語</p>	well, hard, how, fast, slowly, quickly, now, then, soon, recently, etc. (原則として基本文の後)

語に情報を追加するもの	
<p>場所方向</p>	above, up, down, in, out, upstairs, etc. (原則として動詞を後ろから修飾)
<p>程度</p>	very, much, really, quite, too, so, not, rather, fairly, etc. (語を前から修飾)
<p>頻度</p>	always, never, often, rarely, sometimes, etc. (原則として動詞を前から修飾)
<p>強調</p>	ever (動詞を前から修飾)

<p>文の外側のテキストのレベルから文に情報を追加するもの</p>	
<p>評価や態度</p>	happily, clearly, luckily, oddly, wisely, strangely etc. (文頭に置かれる場合が多い)
<p>視点</p>	mentally, morally, officially, strictly etc. (文頭に置かれる場合が多い)

<p>疑問副詞</p>	
<p>how (様態・手段)、where (場所)、when (時)、how (程度・how＋形容詞・副詞)、why (原因と理由) という、様々な疑問を表現するもの</p>	
疑問副詞が使われる場合	
疑問文	Where do you live?
名詞節	I don't know where you live.

<p>Once upon a time there lived a kind old man. という文の there という代名詞は、「存在」という主題」を表す「主題としての主題」と解釈してよい</p>	
there を副詞とするならば、A kind old man lived there. が倒置された特殊な文で、動作主としての主題は a kind old man であると解釈してもよい	
there＋動詞文は新情報を話題にするときの特別な文なので、*There was the kind old man. のように the を使うような既知の情報は普通 there＋動詞文には使えない	

比較	
<p>比較級や最上級のつくり方</p>	
<p>一般的には比較級には er を付け、最上級には est を付けて作るが、つづりが長いものは語の前に比較級は more を最上級には most を付ける</p>	
規則変化するそれらの語とは異なり、不規則変化する語もある	
「〜と同じくらい…」	(as＋原級＋as →) I am as tall as my father.
「〜よりも…」	(比較級＋than →) John is older than Jack.
「〜でいちばん…」	(the＋最上級＋in/of＋～) Mt Fuji is the highest in Japan.
<p>最上級の the は、1 つに決まる実体としての山 (the highest mountain) を表しているから付くのであって、最上級の規則だから付けているわけではないがたって Mt. Fuji is highest at this point. や I am happiest when left alone. のように、1 つに決まる実体を表していない場合には the は付かない</p>	

関係代名詞	
<p>関係代名詞とは、This is the book which I bought yesterday. (これは昨日買った本だ) のように、名詞（この場合は the book）を、文で修飾するための方法</p>	
<p>所有格</p>	whose
主題	which or who
目的語	which or who(m) whom はやや古風な使い方
<p>先行詞が前置詞の目的語になるとき</p>	
<p>かつては This is the knife with which he was killed. のように、前置詞を関係代名詞の前に置くのが正しいとされたが、現在では、This is the knife which he was killed with. と、関係節の中に置かれるのが一般的</p>	

<p>that という関係代名詞</p>	
<p>that は「なめらかに後につなげる」機能を持ち、「名詞」としての機能は弱い</p>	
My house, which has been for sale for six months, has just been sold. のような、非制限用法の場合は、my house と which の間にカンマがあり文が途切れているため、which の代わりに that を使うことはできない	
同様の感覚で、This is the knife with which he was killed. のような、前置詞が関係代名詞の前に来る文にも、which の代わりに that を使うことはできない	
<p>that という関係代名詞</p>	
<p>that は「なめらかに後につなげる」機能を持ち、「名詞」としての機能は弱い</p>	
My house, which has been for sale for six months, has just been sold. のような、非制限用法の場合は、my house と which の間にカンマがあり文が途切れているため、which の代わりに that を使うことはできない	
同様の感覚で、This is the knife with which he was killed. のような、前置詞が関係代名詞の前に来る文にも、which の代わりに that を使うことはできない	

<p>制限用法と非制限用法</p>	
<p>This is the book which I bought yesterday. のような、関係代名詞が先行詞を数多くのものの中から特定するような使い方を制限用法といい、My house, which has been for sale for six months, has just been sold. のような説明を加えるだけの使い方を非制限用法という</p>	

形容詞	
<p>形容詞は「もの」の状態や性質を表現する品詞</p>	
<p>2通りの使い方</p>	
This is a red flower. の red のように、名詞の概念そのものを変更する modifier（モディファイア：modify 部分的に変更 er するもの）としての使い方は、flower という名詞を red flower という別のものに変化させている	
This flower is red. の red の場合は、名詞そのものを変化させることはなく、単に説明しているだけ	

関係副詞	
<p>関係副詞は、This is the town where I was born. (これは僕が生まれた町だ) の where のように、先行詞（the town）に情報を付け加えるために使用されるもの</p>	
関係副詞は、I was born in the town のように、先行詞を副詞化 (in the town) して、関係副詞以下に文に繋いでいる	

文に対する態度など	
<p>評価や態度</p>	happily, clearly, luckily, oddly, wisely, strangely etc.
<p>視点</p>	personally, officially etc.
<p>修飾の原則（前から変更後ろから説明）</p>	
red という語が後に続く flower の概念を変更	This is a red flower.
red という語が前にある This flower を説明	This flower is red.

目的語の後に不定形や分詞が来る文	
<p>知覚動詞の構文</p>	
I saw a frog jump into the old pond. の I saw a frog までは第一の文で、a frog jump into the old pond が第二の文。第二の文全体が saw の目的語になっていると解釈すると分かりやすい。	
<p>使役動詞の構文</p>	
I made him call you back. も I made him までは第一の文で、him call you back までは第二の文で、第二の文全体が made の目的語になっている	
<p>語のレベルで情報を付け加えるもの</p>	
<p>動詞に情報を追加</p>	
動詞に動作の方向を付け加える副詞	
動詞の直後または動詞の目的語の後（代名詞の場合）	
He put down his bag. He put it down.	

<p>名詞に情報を追加</p>	
<p>形容詞（語の定義を変更する modifier としての使い方）</p>	
modifier としての形容詞は、名詞の直前に来る	
sweet orange	
<p>限定詞</p>	
限定詞は修飾語としての形容詞の前に来る	
a sweet orange	
<p>語に「語としての程度」を与える、程度の副詞は語の前に来る</p>	
「〜と同じくらい…」	(as＋原級＋as →) I am as tall as my father.
「〜よりも…」	(比較級＋than →) John is older than Jack.
「〜でいちばん…」	(the＋最上級＋in/of＋～) Mt Fuji is the highest in Japan.
<p>副詞の一種としての predeterminer は、限定詞の付いた名詞の前にくる</p>	
次の例文の quite は「語としての程度」を与える程度の副詞の仲間	
quite a sweet orange	
<p>名詞を後ろから修飾する前置詞句あるいは形容詞、形容詞の場合は関係代名詞と</p>	
be 動詞が省略されていると解釈できる	
the apple on the table	
the apple red in the light	the apple (which is) red in the light

名詞

名詞の認識の仕方

限定詞が付いているか	付いていれば	実体
	付いてなければ	概念
実体なら可算か不可算か	形の定まっているもの	可算
	時間軸上に現れた現象	可算
	形の無いものと概念	不可算
単数か複数か	単数	形の定まっているもの
		1 つの形の定まっているもの
		1 回の時間または現象
	複数	概念
		複数の形の定まっているもの
		複数回の時間または現象
集合名詞	police のように複数として扱われるものや family のようにその時の使う人が全体で一つと認識しているか、構成する個々を意識しているかによるものがある	
不可算名詞が可算扱いされるときは「種類」を表す		

様々な名詞

普通名詞	形のあるもの book, chair	時間軸上に現れるひとまとまりの時間または現象
	hour, earthquake	
物質名詞	形のないもの water, sugar	構成する個々のものを意識せず、全体を量として捉えるもの
	baggage, jewelry, furniture	
集合名詞	複数の人・物などで構成されるもの	
抽象名詞	概念だけで実体がないため通常は限定詞が付かない	freedom
固有名詞	個を他と識別するための、概念を持たない名詞	

限定詞	
<p>限定詞は、概念に時間空間的な範囲を与えて「実体」を表す</p>	
したがって限定詞の付いていない名詞は「概念」を表している	
実体を持たない抽象名詞に限定詞が付くときは概念の中を区切る「種類」を表す	

a, an	同様のものが複数存在する「普通名詞」の実体の 1 つを表す
the	物質名詞の実体や地球のように 1 つしかないもののためそれと定まってしまう実体、普通名詞でも文脈によりそれと定まってしまう実体を表す。
some	普通名詞や物質名詞の区別なく以前の、単に実体であることを表す限定詞
any	a の強調形で、「1 つでも」、「1 つも」を表す限定詞
所有格	my や your や someone's のように「誰の」を表す限定詞

動詞・助動詞

動作の移る動詞、移らない動詞

自動詞

intransitive verb

移らない性質の動詞→動作の対象を直接取らない

I shot at the sheriff.

保安官を狙って弾を撃った。（当たったかどうかは不明）

他動詞

transitive verb

移る性質の動詞→動作の対象を直接取り、原則的には動作が対象（目的語）に移る動詞

I shot the sheriff.

保安官を撃った（弾が当たった）

不定形と活用形

不定形

動作の概念を表す

活用形（定形）

個々の動作を表す

時間と空間

↓

不定形（動作の概念）

→

活用形（「場」を持つ個々の動作）

↑

動作主

to- 不定詞	
<p>to- 不定詞の to の感覚は、前置詞の to と同じ「到達」の感覚を表し、活用形の動詞の「場」から不定形の動詞の「場」へ到達することを表している</p>	
I want to drink water. want という活用された動詞のつくる「場」から drink という不定形の動詞が実際の動作になるときの「場」へ到達することを表す	
Do you like English? Do という動詞のつくる「場」に like という不定形が含まれるため to が付かない	

to- 不定詞の表す「～すること」という表現は、動作の概念を表すため、どこか現実感が薄い表現となる	
to- 不定詞の表す「～すること」という表現は、動作の概念を表すため、どこか現実感が薄い表現となる	

英語学習シートの使い方	
<p>状況補語</p>	
<p>基本文に状態・性質を表す語を付け加えた、基本文型に自由に追加できる部分を状況補語という</p>	
状況補語は Mary danced gracefully. の gracefully のように副詞で表したり、I live in Tokyo. の in Tokyo のように前置詞句あるいは接続詞に導かれた従属節によって表され、時、場所、様態、量と強め、手段と道具、同伴、原因・理由、目的、材料、行為者、「matter」、価格、衣服、反対、状況、比較など基本文型で表すことのできること以外の事柄を表す	
英語では、骨格となる基本文型と必要に応じて文に自由に追加できる状況補語とで、あらゆる事柄を表現する文を作る	

「時」とは、Betty saw the movie yesterday. や、I get up at 6 in the morning. などのように、動作の起こる時刻を表したり、John stayed in Japan for three month. のように期間を表すもの	「材料」を表す前置詞は、from, of, in などがある
	Wine is made from grapes.
	The houses are made of red brick.
	It is done in the latest fashion.
「場所」とは、I'm home. (私は家に居る→日本語の「たいてい」にあたる決まり文句) や、I live in Tokyo. のような、存在や動作の場所を示すもの	「行為者」は、The glass was broken by John. のように、受身文における行為者を表すために、前置詞 by を使って示される
「様態」とは、Mary danced gracefully. の gracefully のように、動作の様子を示したもので、Mary danced with grace. と前置詞句を使って表現することもできる	「matter」は、何かにに関して、というテーマを表す
	前置詞としては、about と on という前置詞が使われる
	Helen's told me about you.
	He spoke on the new computer software.
「量と強め」とは、Thank you very much. の much や I walked 30 kilometers. の 30 kilometers のように、文全体（別の見方をすれば文をコントロールしている動詞）の程度を示すもの	
その他にも、I go running once a day. のように頻度を表すものもこれに含まれる	「価格」を表す状況補語には、at と for という前置詞が使われる
	I bought the stock at 10,000 dollars.
	I bought the shoes for 20 pounds.
「手段と道具」とは、Jack went to Tokyo by train. や、I wrote the letter on my computer. などの、by train や on my computer で示されるもので、動作が行われる際の、手段や使用する道具を表すもの	「衣服」には、in という前置詞が使われる
	The lady was dressed in fur.
「同伴」とは、Betty went to Tokyo with her father. の with her father のように、「誰かと一緒に」という状況をつたえるもの	「反対」には、against という前置詞が使われる
	I did it against my will.
「原因」とは、Mr. Ford died of cancer. の of cancer のように、動作や状況の起こった原因を表すもの	「状況」は、「どういう状況にあるか」ということを示すもの
	The patient is in danger.
「目的」は、She bought the book in order to study Spanish. のような文で、「原因」と似ているところがあるが、「原因」が過去の事実を示しているのに対し、「目的」は未実現の事柄が対象になる	

分詞と動名詞	
<p>動詞の動作の局面を表したものを分詞といい、動作の開始から終了までのことを表すものを動名詞という</p>	
現在分詞	動作中の状態を表す
過去分詞	動作後の状態を表す
動名詞	動作の開始から終了までのことを表し、開始から終了までという時間の要素を持っているので、活き活きた表現になる
<p>受動態</p>	
<p>動詞の動作が目的語に移る、「他動詞」動作文（能動態）を、動作を受けた目的語を主語にして状態文として表現したものを受動態という</p>	
能動態	John broke the glass.
受動態	The glass was broken by John.

時制	
<p>英語が動詞の活用として表現できる時制は、現在と過去の2つだけ</p>	
そのほかに現在形を使った、未来を表す言い方がある	
過去	動詞の有標形（過去形）を使って表現する
現在	動詞の有標形（現在形）を使って表現する
未来	will のような法助動詞で動詞の不定形を包み込んで表現 I will go. be going to のあとに動詞の不定形を続けて表現 I am going to go. 現在進行形を使って表現 I am leaving Japan tomorrow. 現在形を使って表現 I leave Japan tomorrow.

過去形はより根本的には動詞の有標形であるので、いきなり「過去」と捉えるのではなく、まず「有標」と捉え、「有標」の中から過去が浮かび上がるようになることが大切

動作動詞の現在形は実際の動作を表さず、概念としての動作を表す

現在形は、時の流れとは無関係な真実や現在の習慣、状態、あるいは劇の台本のト書きのようにあなたか目の前で進行している光景などを表す